

陳情第3号

令和4年7月26日

川崎市教育委員会 教育長
小田嶋 満様

川崎市教育委員会教職員人事課の人事権に関する陳情

日頃より、川崎市並びに教育行政の発展にご尽力いただき感謝申し上げます。
以下の6点に関する陳情をお願いいたします。

元小学校校長の愚行と共に、自らの教頭としての任期が9年にもなる理由について教職員人事課に訴求してきたが、その内容について、教職員人事課担当は当時の部長にきちんと報告もせず、後任者への引継ぎも怠った。次年度の教職員人事課担当においては4月末に面談をし、翌日メールで今後の対応について嘆願したが、こちらが再度連絡を取るまでの6か月間、メールでさえ返答することさえもなかった。「川崎市教育委員会職員通報制度」の窓口が教職員人事課にあるにもかかわらず、職員に対する非礼で人権を無視した対応は自分自身への精神的な負担を増幅させた。その後もきちんとした謝罪はなく、3月になり、やっと元小学校長に対して尋問したようだが、本人の申し出を中心にそのまま鵜呑みにするだけの報告だった。他の被害者からの苦情を聴く機会を設けることを提案したがそれをも無視した。また、なぜ、元小学校長の愚行が6年間も継続したのかを調査分析もせず、曖昧な調査で何も問題ないと結論づけてしまう姿勢は職員を冷遇した行為である。

真実を見極め、不正を正そうとする姿勢が全く感じられず、自分達の任命責任、管理責任に及ぶことを避けようとした行為は許されるのであろうか。

川崎市教育委員会校長昇任制度について、面談3回、そのほか、メールや電話で教職員人事課担当と相談させていただいた。また、その件について、その後川崎市オンブズマン、川崎市コンプライアンス推進室、市長への手紙、川崎市人事委員会と関わらせていただいたが、結局はどこも管轄外で、教育委員会の問題に対して監視、指導する権限はないという返答が中心だった。また、教職員人事課担当の発言にもあったが、コンプライアンスを保つための方策は何も取られていない。校長からのヒアリングもそれほどウエイトは大きくないということだった。元教職員人事課長の話によると試験は小論文と面接はあるが、それも最低限のラインをクリアしたかどうかだけでの材料に過ぎず、それほど重要視されていないようだ。また、その人の業績についても一切調べていないし、面接等で知ろうともしていなかった。では、何を以て選考しているのかを尋ねたが具体的な内容は何一つ教職員人事課からは示されなかった。

校長選考について、表向きは教職員人事課で選考している形にはなっているが、課長級の職員は誰一人も携わっていない。部長と一部の校長で選考会議を行い、決定している。選考基準もあいまいで、選考上の評価資料もないようだ。選考委員となった校長はすべての教頭のことを当然熟知していない中で、公平に平等に評価できるのであろうか。本来は、教職員人事課が様々な機会をとらえて、教頭に対するそれぞれの教職員の評判や評価を集積していくべきである。その役割を放棄し、自分達の都合主義、一部の方々の既得権保護の表れか、実に安易で軽率な方向を維持し続けている。2008年に起きた大分県の汚職事件と同じように仲間意識、同僚意識が大変強く、自分達の利権にしがみつこうと維持し続けている。その結果、教育に対するビジョンもない、やる気もない、非常識で暴慢な校長を作り出している。(もちろん、立派な校長も多いが。)教職員人事課は任命責任、管理責任を誰も取ろうとはしない。

また、校長の選考において、各教科の常任委員、特に体育科の常任委員が人数的にも多く優遇されている。このことについてはきちんと統計を取れば明らかであろうが、教職員人事課はやる必要がないと固辞している。統計を出してみないとわからないのに、すでに分かっているような反応であった。

常任委員はその教科の研究を深めたい人たちが任意で集まった校長会の下に置かれている組織であるのに、なぜ、人事の上でこれほど大きな優遇を得るのであろうか。本来、学校の中でどれだけ頑張り、能力的にも高いかを評価されるべきはずなのに、任意の集団の常任委員としての実績が大きく関わっているのは大変不思議かつ不公平である。

<教育委員会と常任委員から昇任した校長との癒着例>

・教職員人事課への小学校教員からの枠は2~3名だと思いが、この人選でも常任委員がほとんどで、特に、体育の常任委員は毎年必ず、一人は存在する形が続いている。現在は2名も在籍している。これは、教職員人事課と体育の常任委員との強

